



木曾路名所圖會  
三

ル 3  
3261  
4





木曾路名所圖會卷之三

〇落合  
 霧原山  
 常本  
 皂鵬巖  
 丸山城跡  
 岐阻路山中  
 光德寺  
 兜巖  
 〇三富野  
 羅天橋  
 牛頭天王  
 鈿宮  
 〇目録  
 落合橋  
 御坂古蹟  
 兼好法師跡  
 下坂川  
 吉蘆路  
 唯雄瀑布  
 妻籠古城  
 風越山  
 園原先生碑  
 伊勢山  
 住吉祠  
 熊野権現  
 〇十曲嶺  
 菌原  
 鎌倉街道  
 諏訪祠  
 木曾川  
 大妻籠  
 鯉巖  
 吉本若岳  
 牧澤橋  
 赤坂蘇嶽  
 白山権現  
 等覺寺  
 〇義信園塚  
 伏登邑  
 馬籠  
 永昌寺  
 妻籠  
 牛頭天王  
 烏帽子巖  
 捨樹澤  
 横川戸橋  
 揚籠山  
 若宮祠  
 觀音堂

岩戸觀音

○野尾

鹿島祠

妙覺寺

長野

貴布祢祠

阿滿橋

淨勝寺

小野滝

獸類皮店

鹿嶋祠

本曾根旧跡

本曾川

興善寺

名産和合酒

飯盛山

白山権現

野尻家

今半兼平城

出雲祠

懸出觀音

本堂

左京大夫親豐墓

御免河橋

親善堂

神明

御嶽川

御室

三富聖邸

本曾大河

住吉祠

本戶致春家

木曾殿館

天長院

須原

本堂

除川寺

阿彌陀堂

三飯廻翁閑居

御嶽

福島

木曾古道

牛頭天王

諏方祠

聖瓦城山

弓矢八幡

辨財天森

伊奈川橋

麻橋祠

寢覺床

氣比祠

上松

御嶽鳥居

福徳園隘

長福寺

義康古城

名産

権守兼遠家

野好池

宮腰

本曾義仲城

山吹山

義仲手洗水

萩原宅

名製玄掃

禎明神祠

長泉寺

名造諸器

櫻澤橋

名家譜

赤魚

作殿

研大谷

正八幡宮

樋に次郎兼光館

萩曾川

萩原

五反田橋

鳥居道

綱懸嶺

奈良并義高家

諏方祠

勢川

本曾義昌家譜

名製

水精山

斬蛇潭

南宮祠

今井節兼平城

往還橋

熊野権現

巢鷹官舎

義仲硯水

奈良并橋

千村重照宅

平澤

構本澤

徳音寺

明星巖

烽火嶺

徳音寺

巴御茶第蹟

徳音寺橋

極樂寺

土産

奈良井

大寶寺

土産

勢川

諏方祠

本堂

鐘樓

本堂

義仲墓

親善寺  
 千村後政家  
 五月日橋  
 黒川温泉  
 箕代山  
 西野  
 氷湍園道  
 本尊殿墓  
 幸山  
 吾光寺乃  
 塩尻

鷲着寺  
 荻曾  
 夜更着洞  
 山神祠  
 烽火臺  
 黒澤  
 土産  
 兼遠墓  
 幸山親音  
 桔梗原  
 塩尻嶺

柳菴橋  
 諸獸  
 奈川  
 駕疲嶺  
 小子墳  
 御嶽権現  
 崩城古城  
 洗馬  
 大洞清水  
 淡間祠

熱河四郎宅  
 土産  
 秀洞澤  
 鏡湖山  
 地渡澤  
 御嶽山  
 岩戸権現  
 三浦山  
 義仲馬洗水  
 阿禮神社  
 大岩

本曾路名新圖會卷之三目錄終

本卷二目二

落ちあひの  
 兼行  
 霊社



落合橋  
 十曲演  
 美信二州の  
 國界あり



木曾路名所圖會卷之三



馬籠まで一里五町は宿と若竹炮を製して歩るが所  
いみじくも落合五郎兼能とくち者居候の地あり馬の函を  
旁小杉の大樹多くある林あり其中小落合の所が靈と云ふ  
祠ありは宿賤

落合橋 宿の入口にあり登が橋ともいふ双方より栗坂出しく  
十曲嶺 坂九折多しを名する

美濃信濃 圃場小あり  
霧原山 霧原より東に二里許あり山中一里餘平地なる地  
ひくく一畝田を耕す一ツの甕を傳ふる其中小落合七  
千石あり其餘を粟穀にしてを平豊穀の五穀及以備元通  
定大觀政和

御坂山古道 濃州大井驛の千石餘あり本宿路より大寶二年  
本宿路を印しくといは街道あり園系を経て伊奈郡小玉

木曾三二

萬葉

知波夜布留賀美乃美佐賀爾怒佐麻都里

伊波負伊能知波意毛知我多米 主帳埴科郡神人部子忍男

後拾遺

ちる雲のふり見ゆるあしの山れき櫻津坂かろき

夫本

信濃川付葎の河をせうろれ本宿の津坂に糸糸小なり

續後撰

志ふれちや本宿の津坂を小篠原分り社もかくや藤乃兒

新十

谷風小雲こそせのわれ信濃路やこそせ津坂の夕立を

古事記

日本武尊條曰越科野國言向科野之坂神而還來尾張

國云

景行紀

倭武尊信濃を過る美濃へ知るふして大坂の坂を越ゆり食於山中

山の神白丸麻と成る津葎よまらるる葎をりてさうけなみ  
みれば目小あさうて御まらるる葎を信濃坂と越るそのおほく神せん  
氣よ河をさうく煙ひるる本付けつり後葎を齎る人及び牛馬小塗を  
おのけう神の氣本あさうけつり又曰る山中に道を失ひてふり小



信濃守

白狗導を執事あつて兵隊本出する云々

今いひて信濃守藤原陳忠と云ふ人ありて

陳忠と云ふは比叡の嫡子也

元方の二男なりて五任國畢て乃れ上りて乃れ津坂と城を同本多の馬

たふ着を衰く人の衆ありて中に守の衆ありて乃れ馬と棧橋の柱を

本を後足取て踏折る守遂に馬を棄てて乃れ藤原入ぬ處をい

はくとも志すに深なれ守生くあまもまじし守の叫びを地

の響遠く遠く聞ゆれ其室より乃れ虎原何處を宣ふと聞くと

云ハ藤原舟繼長くはあて下せと雲あり扱わ守の生て物小留

りて清なるなり乃れと知と藤原小多くの之れ差繩どもを収集て

結びて結結と云れくと下り中畧守藤原舟繼長く被絡よと

と云皇朝七十代の後すも津坂の嶮難思ふ乃れ棧橋の柱をい

はくとも志すに深なれ守生くあまもまじし守の叫びを地

菌原

今この御原の村に宗祇のいとちの兵隊信濃の國開ふありとい

全宗

新古

後拾遺

これより一説あり眞田のれく本ありて十の系

なりと今と云は城のこゝせよなりと云

と云き此指やのこれなりと云ふその系と云ふなり

そはと云ふ伏屋本生るる本の有といふと云ふなり

ゆつと云ふあれも何と云ふ本の本をせけりといふは是なり

伏屋里 菌原の申にある回屋をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の

或云は伏屋の穴をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の

其地は信濃の穴をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の

と引て伏屋の穴をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の

古昔有家武人之倭文幡乃帯解替而廬屋立

妻問為家武勝牡鹿乃云

又庵八燦ぬせをのすれい存或と云ふと云ふあり

云らて地本らうふせと云ふれぬと云ふは是なり

帯本

菌原の穴をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の

帯本

信濃の穴をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の

帯本

信濃の穴をいふと云ふは信濃の穴をやりて坂の



或人かきりけるハ一とせ受領ふらふハ山嶺とて幸有し小  
 又他本とたり並て櫛と高し中れ樹をたふ斧とあてん小嶺と  
 たて、あつちを隠れ本とてとをたふ幸有しとてさだるるを  
 兼好法師菴住いとしり今勢源の中に後藤を治と稱す内あり兼好也  
 後藤や音使通ざるうり山中の者誰ぞ  
 通して今又誰ぞて後藤を治と稱す内あり兼好也  
 鎌倉街道今勢源を經く勢源山中に沖坂小嶺あり人年長馬  
 復通りの中古遠山氏とて者あり濃州遠山の莊を領は  
 時鎌倉將軍の代されをたは道より鎌倉へ通ん又甲州武田は  
 濃州經く河を渡り  
 濃州勢源に入るなり

**馬籠**

妻翁すて二里 駅中南北三町

其好氏居山中に散在

**皂鵬巖**

其好氏居山中に散在 皂鵬の岩小集るなり

**下阪川**

下流湯船沢小川あり

**叛訪祠**

熊聖権現祠にあり

**永昌寺**

長福寺小属さ

**丸山城趾**

丸山の西小あり丸山ヤ嶺又駅の西小岩山とてあり交と  
 合戦跡といふ本名家傳云備後守家村西聖田立馬  
 籠小三の岩と築く

**破蘓路**

これその一なり 焚川すて廿一里之間水が流る

千載 本賊うれその何さたぬ袖ぬきてみるぬ病もむと致危  
 新勅 中く小のいもむとて信流す本名家の標れけりやふき  
 後後標 せひささ岩の指城もてゆくちぬ花む本名けけは  
 後後標 今々本名家の標たえく小名を急ぬけ事ま志うと云  
 新後拾送 雲もると下にまふけにのけるふ言れ本名の中包ら  
 勅後吉介 今も本名家の標れあふ成志りてや月のまふらあ

家集 五月のうけ小さつる山人のいてはるあはれ孝のうけり  
 本曾川 街屋のち小流の大河めて川中の石  
 丈夫 足せとやかい信使の本名流河君よ思ひの流とてりつと

後二位 行家卿

本名二五

後關關似秦丁力  
 棧道斜通驛空齊  
 峯去宛然踏曉霧  
 樹涼鷓鴣泣霜天  
 猿肩不掃分軍夕  
 驥足欲死陷澤年  
 桀老何圖當日事  
 采蕨一曲隔風煙

霍山烟雉



馬<sup>ま</sup>  
 嶺<sup>のり</sup>  
 妻<sup>はな</sup>嶺<sup>ど</sup>み<sup>つ</sup>の<sup>り</sup>

馬<sup>ま</sup>嶺<sup>のり</sup>  
 嶺<sup>のり</sup>  
 棧道<sup>せきだう</sup>  
 育<sup>よく</sup>



馬嶺

信濃 妻籠

三留野までを里半駅中南山三町相對して巷成り  
 其餘の山間民居多し本吾路と安曇郡がり於て信濃  
 と山國とて階坂多ければ一と科野と書れば國東の上野  
 南ハ甲斐遠江三河水越越後越中飛騨西と英濃之凡八ヶ國  
 本吾路の長と東と雄井峠より西と英濃湯田  
 本吾路山中 谷中せむし少人田畑まれば村里少し  
 松平の石を壁石ありて風をぬき耕りて粟黍粟  
 用也我の穂本は松平の穂本は松平の穂本は松平の穂本  
 熟し山中の梅多し一と松平の梅多し一と松平の梅多し  
 小松ありて又は國東の松ありて又は國東の松ありて  
 雌雄瀑布 駅の南の側あり雄とたふあり  
 大妻籠 駅の南の上  
 牛頭天王 駅中にある一村生上神とて其外 神明祠  
 南宮祠八王子祠 俱小村民あり

鯉岩



妻籠古城

駅の東にあり城址現存天正十年本曾義昌之將を築いて

山村良勝攻めて小居比む同十二年秀吉公本曾義昌命し

伊奈路を禦ぐ義昌兵良勝小増して妻籠城本籠の時小伊奈

郡主管沼小大膳諏訪保科を兵を合せ本為と就教んと欲し本蘭の

岩を抜く妻籠城と攻め良勝士率命しと鳥銃を放ちこれを防

伊奈軍登る度を得て退ひて遠巻りて且水道を断城中水乏

自本をよめ馬城攻め城を破れ城に水乏なり城堅くは

かたて軍を退け伊奈軍小居不度勝伏兵設けてと討

士率死亡する者多し若治大に敗走れ廿は良勝の功状

鯉巖 妻籠のふらふらなるあり

烏帽子巖 形似る小合渡神戸小

兜巖 右小隣ふらふら

風越山 飯田のふらふらなるあり

本曾二ノ八

千載

詞花

夫木

新六

千載

風あり城ゆるくえられの附きあり

風越の家はくえられの附きあり

手向もむきひくゆる風越の

くふて月をえんえんをら

さくをえんえんをら

古本曾嶺 飯田界あり

捨樹澤 飯田のふらふらなるあり

民を御し三月十三日

伊奈軍妻籠城を攻め

其時の射殺の旗

聖廟や二里守駅中南北

みか山中なり名あり

就中三留聖より聖廟

源氏本曾川は踏の狭



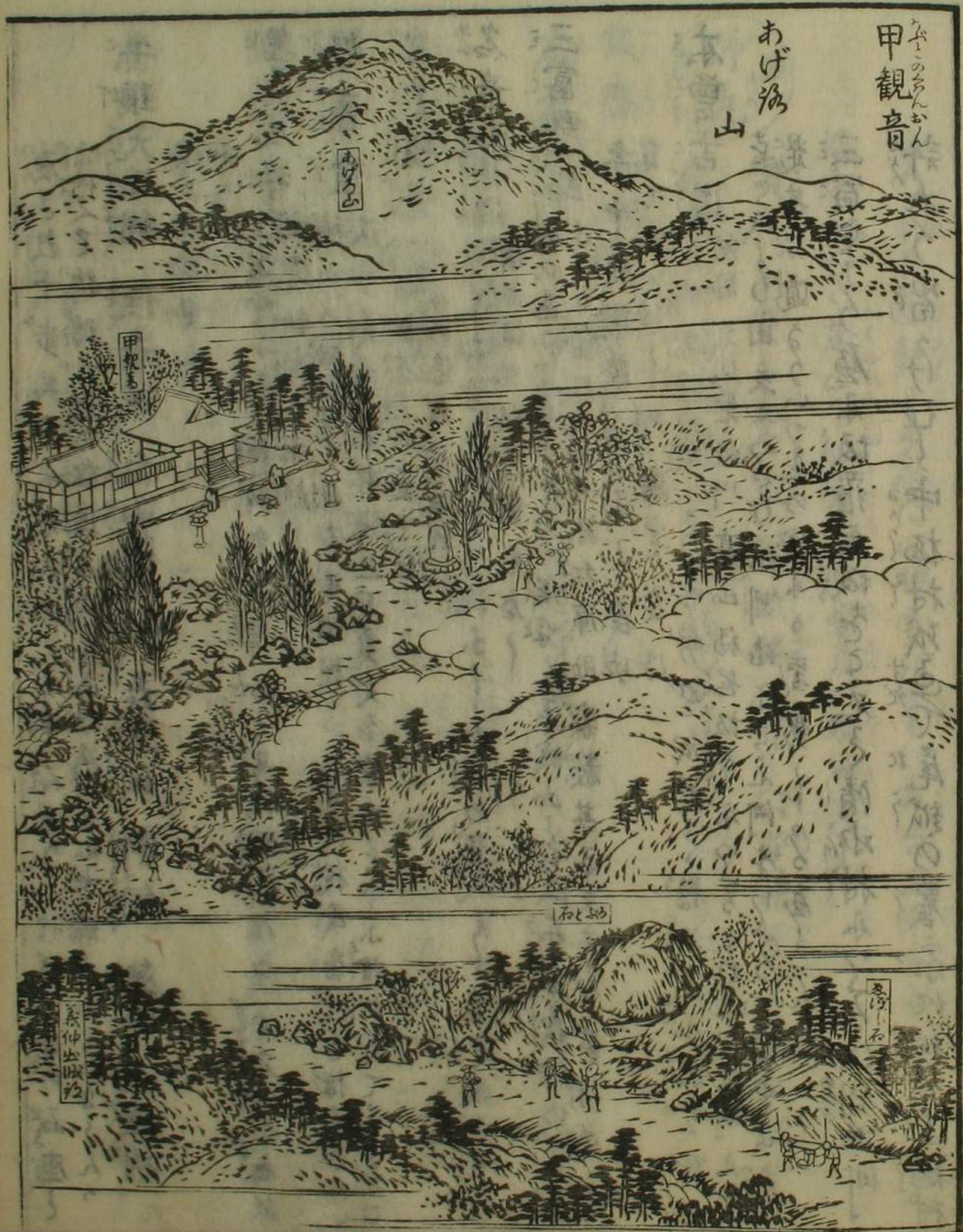
三留野の濃



川をせせ  
 本居路の  
 秋  
 長茄子  
 元全



三富登より  
 聖原まで  
 踏  
 核道  
 多  
 杉屋拾  
 雲  
 下に之  
 うひ  
 け  
 本居の  
 山  
 休頭具



かつ先街道此狭きを補ふ右と左にわたり屏風状なるを築きしめて  
 其の中より奈文巖はくせく路を遮ふ此より小橋及びまじりてはも川のよ  
 りけりふ橋よりあはれ碓道の絶ゆる所よりけたる橋あり他園ふち  
 なるうたふけし橋あり山の尾勝孤島くく若くは入ちて先山の山  
 尾勝孤島より所より其苦道は横つて溪川の流る本若川小橋合  
 所よりこれより奈橋されいあやうれ事甚しは間中橋より所育  
 其向ひ小坂友とよ所もあり其ありり溪川一流来りて雙方の間  
 に大岩あり奈系あり  
 園原生の碑 神戸の東にあり天明三年これを建ふ  
 牧 牧澤橋 横川戸橋 羅天橋 いづれも樹樹  
 伊勢山 伊勢の西小坂あり河を隔りて里流る天正十年  
 奈岐嶺 嶺の東にあり又一名比魯とよは山小入る本と伏  
 揚麓山 神戸の西より山徑嶺嶺人登るをすまれり若の近に所小窓ありは中

廣さ樹十歩其内山方武三丈の平石ありて終成山姥の石座と  
之傳人王所傳山姥の謡曲其声をあけ海の舟や船もこれよりん  
牛頭天王祠 住吉祠 白山権現祠 若宮祠 劍祠 熊野権現祠  
俱小三宮聖小

等覺寺 三宮聖小あり曹洞宗時見山と号以信州松本全久院小属以  
大雲和尚を創創と云

観音堂 神戶の観音と稱也馬頭観音其安以村民香火を捧ぐむりし  
本宮義昌永樂儀三百貫文を寄附也今小證状有て是を證す

岩戸観音 千子の流成安並に  
名産和合酒 本宮の岩中酒あり和合の里人より先く酒を造る

三富野郎 駒のあふ一の阜山あり信州城山より本宮義仲の子孫  
年中將軍尊氏小属一武功

本曾古道 信州赤坂の駒より者勢聖成歴々稻渚小山牧野野上  
細目久田見輕川高山福長坂本よりこれ三宮聖小属

是其古道ありいづきの代より交易ありるありん

三富聖より尾坂羅天坂をこえく清水村よりりは同世所

許あり皆うけむ中極村城まで尾城の農家にあり十二極村

より駒ヶ嶽鮮見色内は時雪城峯に載きて風色斜ありけり

坂をこえく芝山下左象より聖尻の駅ありけり

須原までを里三十町は駅あり一聖路里を以て駅中

東西五町餘相對して巷城あり其好山間小散在り

飯盛山 駒のあふ河を隔り

本宮大河 三宮聖の東よりり城色く上松本よりり水流奔

騰して其聲雷霆の如く大雨の時水漲りて畏るべし

牛頭天王 鹿島祠 白山権現祠 住吉祠 諏訪祠 俱小村民

妙覺寺 須原定勝寺小属り

野路里右馬助家益家 本宮長とある文禄元年豊太岡檢地の時石の備

本戸彦左衛門致春 奮小笠原の族入りなり國東本戸ありて氏とん

経に其子孫歴代里番とある家小吉甲曹及び  
太刀一柄あり長サ三尺三寸許極先く奇他あり

野路里館 野路里館の南にあり今城山といふある時古徳一寺を鑿得る都

長野 東山道の中にあり駅次本所なり

今井四郎兼平城 其麓に古園門の址あり里人にこれを園山といふ本

本曾殿館 村に後三層塔あり其後三層塔の遺址あり本曾殿

其頂に兵部を設け英波を防ぎしと見えしなり

本居んは色右衛門教基あり里人云本居殿より本居所し中

花城業さるの 地なりといふ

弓矢八幡宮 弓矢村小あり本居

貴船祠 十月に日石川兵衛光吉神田を寄進し

出雲明神祠 其村に此祠あり本居殿を寄進し八月十五日

阿弥陀堂 出雲明神祠の境内にあり本居殿の

天長院 眞言宗中興より本居殿と云ふ竹室小大経巻六百巻有

永正十八年等の文字有

本居三十三

辨財天森 本居川の

阿満橋 橋本居川小架れ長七間半

磐出観音 伊奈川村の上あり本居殿

叔聖尾の宿坊に色右衛門本居殿の文行を見く長野村の天長

院不詣一中徳の岩上本居殿より本居殿を遠眺し弓矢村の古

園門と見て核をいふは同の坂嶮一色平次は田中ひら

経く大徳村の今井四郎が城址を見端楊村より伊奈川橋より

町に須原の駅小泊り

須原

上松まで三里九町東山道駅次なり東西四所所お對して巻と

かん土産緑綿は色右衛門諸村蠶紙巻一幸多し

伊奈川橋 三重中岡大水本架れ最壯觀なり後世石を巻く崖に

浄戒山定勝禪寺 須原の西にあり本居殿



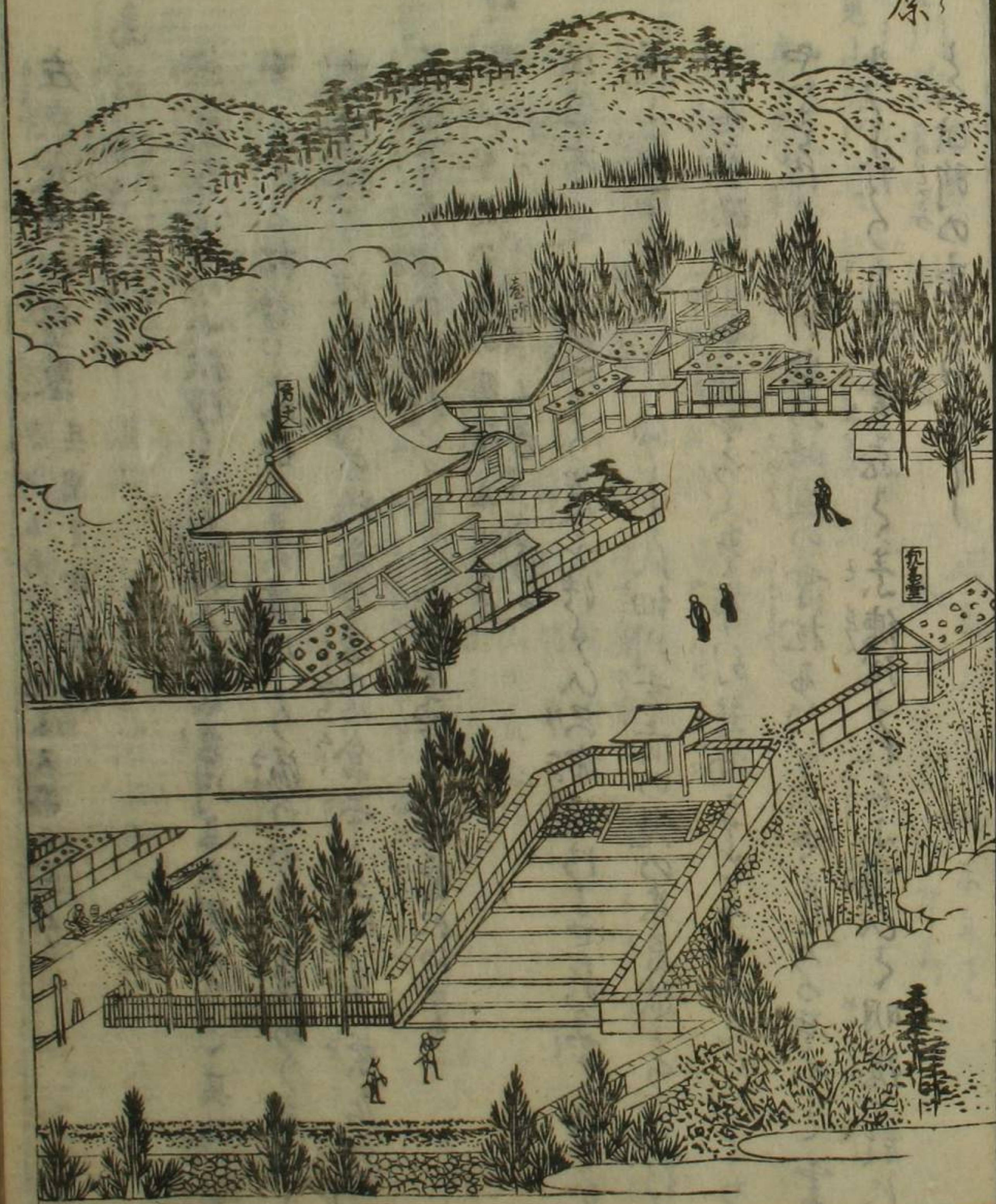


子平兼  
城羅

天  
天  
天

寺 勝 定

須 原



本尊釋迦佛  
 十王堂  
 鐘樓  
 鐘銘曰

山色登樓詩興濃  
 千鈎大器響珍重  
 群生試聽斜窓曉  
 醒夢聲聲百八鐘

天文十八癸酉王林聖贊誌

遊年位持慧章其鐘の破塔を補く大徳張務子  
 泚紫像一幅

董思恭畫一釋迦  
 唐墨梅一釋迦  
 唐出山一釋迦  
 唐漁樵二問答  
 古龍虎二幅  
 左京大夫親豐之肖像  
 太鼓京大夫義清寄附  
 其像志多々不畧凡

寺俗云天正十年本寺義昌慶州をうけと  
 義昌が種ふ靈君軍ふとてか入て故能より足と  
 寺の御守附に其画大幅ふりて

左京大夫親豊墓 寺内あり墓上り大権の孫あり  
鹿島祠 これををある

須原を出く小沢ひく大洲村あり本名川本大洲あり其津さ  
事忘れぬ松ひく本むく其溪川より流れありく橋あり南む  
番場村よりも溪川の橋あり隣倉卒立町あり茶店あり  
立場あり宮の堂村よりから村をさく萩原にいつる

小野瀧 高小聖村の右の路傍あり  
高二丈許直下本名川あり

は瀑布泉と山間より崖を流し只市沢はくせしがたて落ふ  
侍小石像の不動尊ありまに細川玄旨の老の本名越とく純形  
小本名路の小聖滝ありその布列其面をくも母さくそわ  
やいと所これ程の物乃此國の奇松ありゆふそしる世やと書  
とくかり真水雲花く素練瓜とれ石小噴ぐく明珠と散れ  
とくは訓の事あり

ふ免川橋 本名川あり長十五間南より物本あり  
寝覚山臨川寺 寢覚あり山あり祥泉

奉尊釋迦佛 岡山活山和尙  
辨財天祠 尾州代四代

木曾八景  
寢覚夜雨 棧道朝霞  
小野瀑布 德音晚鐘  
御嶽夕照 衡川秋月  
御嶽暮雪 風越晴嵐

寢覚林 尾州の家臣あり  
尾州の家臣あり  
尾州の家臣あり  
尾州の家臣あり  
尾州の家臣あり  
尾州の家臣あり

寢覚の床を隙川寺の茶裁のうら岩間を修してその  
みちを其道たれどけり福免の床本名川の汀  
あり大岩ありく横たると十回長四十間をうり有こ本名川あり  
いと狭き所たれを遊駉してこふく水の水のく毎日もたわめく  
地を添さもけりくそは福免の床ありて大なる

中務親王

家集  
山はさ  
暎初  
久々の  
雲井小  
えのり  
滝  
志系



小野? 沈



巖ありて河小隙あり高れとて海よりけりやうふ付祠ありまうん  
辨天を早と平ある所成りたる床とて其岩園の如くあるを此  
幾許やうを去るに其三人は平あり又飛ぐれうこの河系の中  
りて大石あり水ありて為る本岩川流る霞堂の床大巖あり  
方本岩川よのぞんそ石岸屏風を立たせたるごとく向ひても  
大巖あり支岸の間ありて川二間ありひそ二間ありり  
山賊も綱をわけては河派通ふとを支岩の下の所長六十間  
許あり上の水先流口の岩を上層岩中より河中に板石とて一の  
石有門むひの大岩のうま三ツ穴あり一の穴ある大釜とて二の  
小釜と小釜とらむひ小屏風岩とて屏風を立たるごとくある  
其下もたふ岩とて雪たぐりか岩あり又急げ一岩とて馬帽  
子も似たる岩あり其前本河のくせなる平岩も其う小龍岩有平岩  
のう小巖岩有其巖岩成多岩とて又川むひの岩と小檜板梅松

本岩二十七

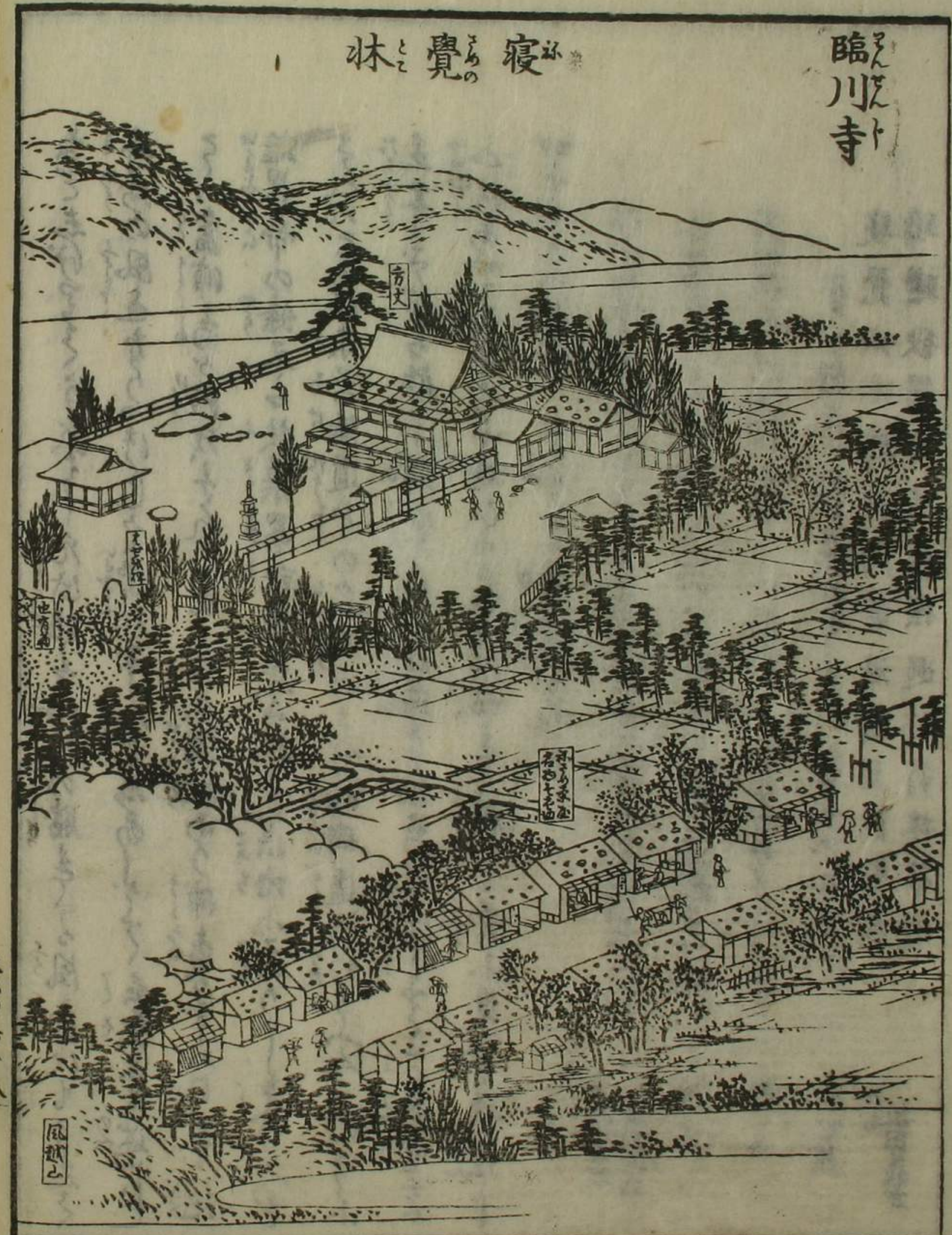
なご志げやうとて丸く九は地と他所の勝まてる風系にもくえく  
奇妙の風色なりいけしを樂に幸ふとありて云々も述じ  
この高浦島が釣成され一石とて小信説あり浦島が幸ひ日本紀  
雄畧帝の條又と枝桑畧記も見へこれどもは地小室り一更ひんさ  
さればこは本岩流道中の名所ありて此街道成りうふ人すげこふ  
立寄さばけり飛雲といふ謡曲も本岩れ山中あり三懸聖堂  
山伏ありてその小達ひる幸成作まり遊する書小見へは後信  
かこといひおがうせん一奇勝あり

たふ河の言ふ巖も然り成霞堂の床と推名はらん  
山里と称さるの床乃さひらふふとて其書も小院まら  
岩の松ありて波なちらわ結の結さめ此床持さひら  
登うねり登床せうその床衣中  
寢覺山林巖經間碧湍鳴玉白雲閑  
晴曙欲問當時跡頼遇邨翁採藥還

近浦抄改  
山無名  
幽  
鶴山  
とせ  
吉田  
植田義方



岩  
 安  
 あり  
 林  
 月  
 あ  
 新  
 島



臨  
 川  
 寺  
 寝  
 覺  
 林

本  
 巻  
 六  
 十  
 八

風  
 賦  
 乙

獸類皮店 本番の山中は意より

海州新橋城なる小然の皮床の草猪を皮靴靴の皮ひあひあは然の  
 爪百多枚花牙をど多く知しそを法系店所よりありは意より  
 獲昨明夕山小將獲これと製しあふおれりゆさう人  
 これ紙求く本番の名産とい然を六雄將軍の瑞も重しとく  
 多くの華店をひるぶるも又意より小らん也

観音堂

建今月天正年中土民田成耕して銅像以得る一巻と

阿弥陀堂

親敷村二世如信上人の画を所し

氣比祠

鹿島祠 神明祠 徳和氏納所

三飯廻翁閑居

弘治年中此人ありて世業を厭ひ

は本番の山中に居しそ不老の薬伝人より其頃の名醫なり  
 あつたる山中奥深く入る茶と煙これを製しそ茶味を調ふ  
 世よ三帰せり謠曲も其人を出せり良秀の名世より愛小若ん

○和極集上下 ○新撰之方 ○小兒諸門

○當流大成捷徑度印可集

○啓迪菴日用灸法 ○治肺氣通藥之部

○諸藥勢揃藥組之方并諸療

○當流依門下學主懇求 ○辨證配劑

合九卷

弘治第二丙辰十一月十九日夜組之

信濃 上松

福清まで二里半駅中南北五所相若して巷成あり其峰山  
 間小教在して住居はけ駅都會の地あり商人多し繁昌也  
 地より駅の小は新築屋とあり終武三家有り葎餅を齋とて

名物とん

本曾棧齋跡 慶安元年尾州郡より有司は小若む  
 有司は長五十六間棧幅三間は又寛保年中日報君と隣



岐阻山行  
 岐阻從來峻  
 劍門陸危不  
 營近焦原  
 巖連峻迫  
 懸空渡峽  
 急難聲轉  
 谷昏古木  
 千嶂籠日月深山  
 一路隔乾坤最驚  
 盛夏雲端雪諸嶽  
 中天冷可捫  
 南郭



上松より  
 榎乃の旧跡  
 山は街道  
 後世今の如く石を積て  
 橋も短く濼とて  
 是れ  
 今と  
 昔  
 今と  
 昔





一本も下(遊)さへせんとむらうく決よけらるる素名熱田(下)熱田  
の中島の方々白鳥とらふ船の系所より其地より志人買取法  
一賣を以奉納式人子小務織子居ては幸成司小務織子居

本島はく流れ本とる幸甚と制禁は故一本も流るの  
後島より谷川の上西有十里許小ありみけと流藏たり所の人許  
御嶽と名六月十二日沖神事あり尚奥小委

御嶽鳥居 御嶽鳥居 御嶽鳥居 御嶽鳥居  
御嶽鳥居 御嶽鳥居 御嶽鳥居 御嶽鳥居

本曾大河 本曾大河 本曾大河 本曾大河  
本曾大河 本曾大河 本曾大河 本曾大河

御室 御室 御室 御室  
御室 御室 御室 御室

福島

宮越まで一里半駅中東五七所お對して巷城る其俗山間  
小教主は本島若中第一の豊饒の地なり而駅京都江戸等

分の地より系より後島まで六十七里福島より江戸五十八里まで

福島關隘 福島關隘 福島關隘 福島關隘  
福島關隘 福島關隘 福島關隘 福島關隘

萬松山興禪寺 萬松山興禪寺 萬松山興禪寺 萬松山興禪寺  
萬松山興禪寺 萬松山興禪寺 萬松山興禪寺 萬松山興禪寺

幸尊觀音 幸尊觀音 幸尊觀音 幸尊觀音  
幸尊觀音 幸尊觀音 幸尊觀音 幸尊觀音

鐘樓 鐘樓 鐘樓 鐘樓  
鐘樓 鐘樓 鐘樓 鐘樓

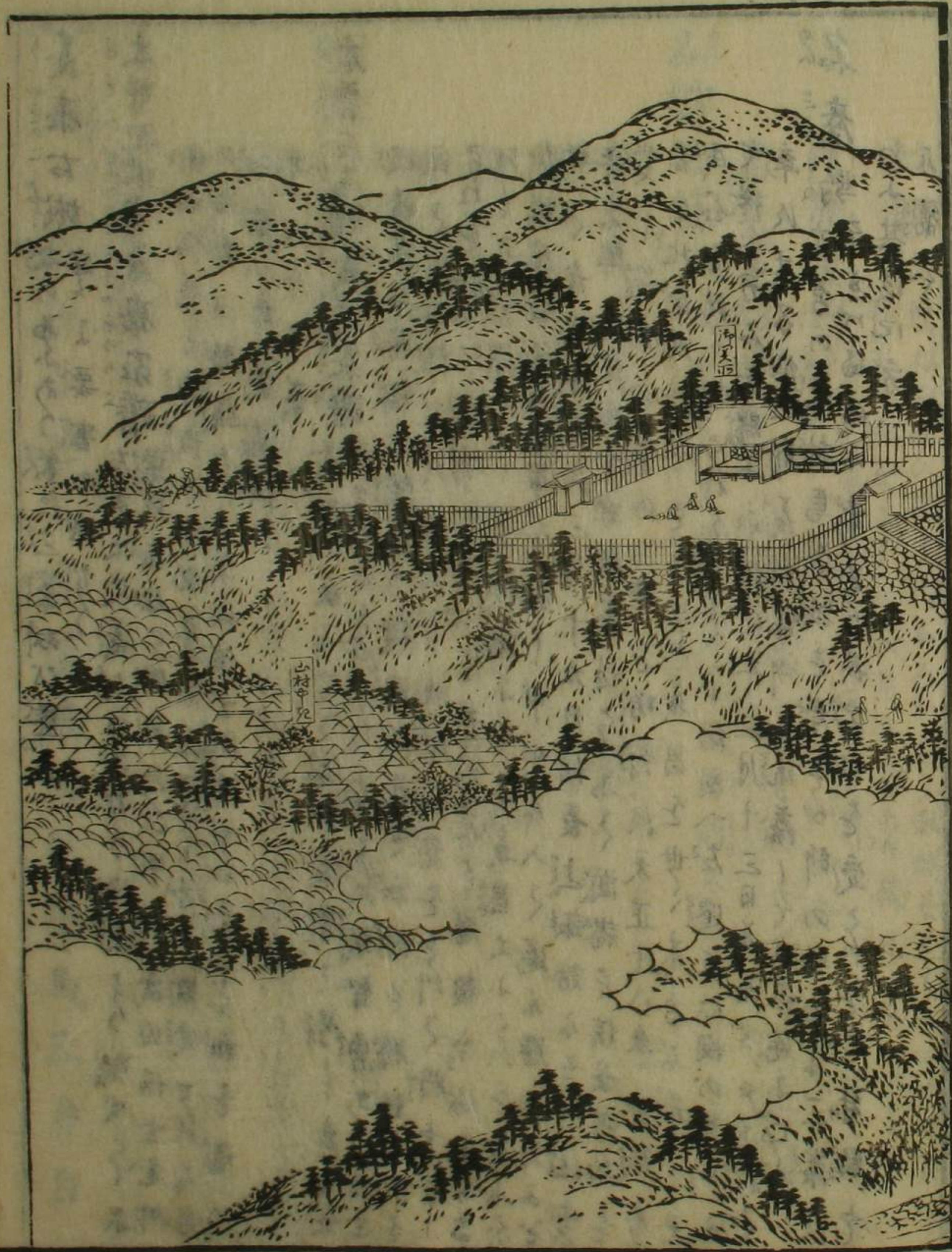
什寶 什寶 什寶 什寶  
什寶 什寶 什寶 什寶

朝日將軍義仲公及び四天王の肖像 朝日將軍義仲公及び四天王の肖像  
朝日將軍義仲公及び四天王の肖像 朝日將軍義仲公及び四天王の肖像

左支房覺明書 左支房覺明書 左支房覺明書 左支房覺明書  
左支房覺明書 左支房覺明書 左支房覺明書 左支房覺明書

龍源山長福寺 龍源山長福寺 龍源山長福寺 龍源山長福寺  
龍源山長福寺 龍源山長福寺 龍源山長福寺 龍源山長福寺

本曾殿の乗鞍 二具 本曾殿の乗鞍 二具  
本曾殿の乗鞍 二具 本曾殿の乗鞍 二具 本曾殿の乗鞍 二具



義康古城 武田の所あり 武田の所あり 武田の所あり

本曾肥前守義康家譜 左系大支義康の子なり 眞嗣より 武田信玄尾州

鐵田信長と年或二十餘年 武田信玄の所あり 武田信玄の所あり

本曾左馬頭義昌家譜 義康の長子なり 後伊藤守と号し 武田信

及後其子勝頼と隙あり 鐵田信長と和勝を勝頼これ

同く大不怒 天正十年 典厩信豊ををり 將せし

これに 武田信長父子大軍を發し 甲州小入る 逸小勝頼父子

斬く 武田信長を 三月十九日 信長上 誅す 信長其功を

賞し 北条氏討平さる 義昌を世く 本曾小勝頼先

氏心を 得る 頭これに 武田信長を 世く 本曾小勝頼先

率に 其子仙三郎 義利 流落して 其家 逸小勝頼

名産 駒 至ま 其後 武田信玄の所あり 武田信玄の所あり

本曾三九四

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

赤魚 黒魚 河鹿魚 岩魚 名製 靱蓄 凍豆腐 凍糰 諸薬種 諸器物

續日本紀云

天平十年八月信濃國獻神馬 黒身白

髪尾云

斯の如く旧記あるはゆ年諸州の軍年法集く駒嶽と圍んとこれを狩り  
んせ思ふひく此右大將の旨士乃牧狩ふ做ふなぐせ縁先支度及乃  
所其幸の六月明智光秀が苗小裁り其其事略といふ山本三峯あり  
三つの内第一小高れを大嶽といふ極く大山なり故本遠方より鮮小見也  
本曾山の中たり山上の雪六月土用の末に消く八月小又積る駒嶽の  
麓を大原といふ其所小川筋あり駒嶽より流る水なり駒嶽が山嶽  
山脈上休系宮處ありは奥よ今村といふありて龍洞山といふ寺あり  
寛永の頃飯田城主服坂辰其驛の陣を小止宿ありて殿邑の八凌れ森へ  
狩ふゆれ駒嶽と縁に之を記す

尾も志海一頭も志駒嶽かんのはくといふ雪のくやこ

中二権守兼遠家 駒嶽 遠景

駒嶽 遠景 中二権守兼遠家 駒嶽 遠景



中三権頭 兼遠宅趾

駒嶽 遠景

治<sub>シヨウ</sub>兼<sub>シヨウ</sub>四年九月七日丙辰源氏木曾冠<sub>クニ</sub>  
 者<sub>シヤ</sub>義<sub>ヨシ</sub>仲<sub>ナカ</sub>主<sub>ヌシ</sub>者<sub>シヤ</sub>帶<sub>タテ</sub>刀<sub>ワキ</sub>先<sub>ゼン</sub>生<sub>シヤク</sub>義<sub>ヨシ</sub>賢<sub>カタ</sub>二<sub>ニ</sub>男<sub>ナナリ</sub>也<sub>ヨシ</sub>  
 賢<sub>カタ</sub>者<sub>シヤ</sub>久<sub>キウ</sub>壽<sub>ジュ</sub>二年八月於<sub>オイテ</sub>武藏國<sub>ムサシノクニ</sub>大倉館<sub>オホクラノタチニ</sub>  
 為<sub>タメニ</sub>鎌倉惡<sub>クランノアク</sub>源<sub>ゲン</sub>太義<sub>ヒラ</sub>平<sub>ヒラ</sub>主<sub>ヌシ</sub>被<sub>ル</sub>討<sub>ウチ</sub>亡<sub>ホロボサ</sub>于<sub>レ</sub>時義<sub>ヨシ</sub>  
 仲<sub>ナカ</sub>為<sub>メ</sub>三<sub>ニ</sub>歲<sub>トシ</sub>嬰<sub>エ</sub>兒<sub>コ</sub>也<sub>ナリ</sub>乳<sub>メ</sub>母<sub>ノト</sub>夫<sub>ハツト</sub>中<sub>ナカ</sub>三<sub>ニ</sub>推<sub>ゴシ</sub>守<sub>カミ</sub>兼<sub>カチ</sub>  
 遠<sub>トウ</sub>懷<sub>イダシ</sub>之<sub>ノ</sub>遁<sub>ガレ</sub>于<sub>ニ</sub>信濃國<sub>シナノクニ</sub>令<sub>ム</sub>養<sub>ヤウ</sub>育<sub>イク</sub>之<sub>ノ</sub>成<sub>セイ</sub>人<sub>ジン</sub>之<sub>ノ</sub>  
 今<sub>イ</sub>武<sub>ブ</sub>略<sub>リヤク</sub>稟<sub>ム</sub>性<sub>セイ</sub>征<sub>セイ</sub>平<sub>ヘイ</sub>氏<sub>シ</sub>可<sub>ベキ</sub>興<sub>オス</sub>家<sub>ラ</sub>之<sub>ノ</sub>由<sub>ヨシ</sub>有<sub>リ</sub>存<sub>ン</sub>  
 念<sub>チン</sub>而<sub>シカニ</sub>前<sub>サキ</sub>武<sub>ブ</sub>衛<sub>エイ</sub>於<sub>オイテ</sub>石<sub>イシ</sub>橋<sub>ハシ</sub>己<sub>ス</sub>被<sub>レ</sub>始<sub>ハジメ</sub>合<sub>ガフ</sub>戰<sub>セン</sub>之<sub>ノ</sub>由<sub>ヨシ</sub>  
 達<sub>ダツ</sub>遠<sub>エン</sub>聞<sub>クニ</sub>忽<sub>クニ</sub>相<sub>アヒ</sub>加<sub>ハツテ</sub>欲<sub>ホツス</sub>顯<sub>アス</sub>素<sub>ソ</sub>意<sub>イ</sub>爰<sub>コニ</sub>平<sub>ヘイ</sub>氏<sub>シ</sub>方<sub>カタ</sub>人<sub>ラド</sub>  
 有<sub>リ</sub>笠<sub>カサ</sub>原<sub>ハラ</sub>平<sub>ヘイ</sub>五<sub>イ</sub>賴<sub>ヨリ</sub>直<sub>ナホ</sub>者<sub>シヤ</sub>今<sub>イマ</sub>日<sub>ニチ</sub>相<sub>アヒ</sub>具<sub>グシ</sub>軍<sub>クニ</sub>士<sub>シ</sub>擬<sub>ギス</sub>  
 襲<sub>オウシト</sub>木<sub>キ</sub>曾<sub>ソウ</sub>木<sub>キ</sub>曾<sub>ソウ</sub>方<sub>カタ</sub>人<sub>ラド</sub>村<sub>ムラ</sub>山<sub>ヤマ</sub>七<sub>シチ</sub>郎<sub>ラウ</sub>義<sub>ヨシ</sub>直<sub>ナホ</sub>并<sub>ナヒ</sub>栗<sub>クリ</sub>  
 田<sub>ダ</sub>寺<sub>ジ</sub>別<sub>ベツ</sub>當<sub>タウ</sub>大<sub>ホツ</sub>法<sub>フツ</sub>師<sub>シ</sub>範<sub>ハン</sub>覺<sub>ガク</sub>等<sub>ラ</sub>聞<sub>クニ</sub>此<sub>コノ</sub>事<sub>コト</sub>相<sub>アヒ</sub>逢<sub>アフテ</sub>  
 于<sub>ニ</sub>當<sub>タウ</sub>國<sub>クニ</sub>市<sub>シ</sub>原<sub>ハラ</sub>決<sub>ケツ</sub>勝<sub>シヨウ</sub>負<sub>ブ</sub>兩<sub>ニ</sub>方<sub>ハツ</sub>合<sub>ガフ</sub>戰<sub>セン</sub>半<sub>ナカ</sub>日<sub>ニチ</sub>已<sub>ス</sub>

下も三ノ六

暮<sub>クレ</sub>然<sub>シカニ</sub>義<sub>ヨシ</sub>直<sub>ナホ</sub>箭<sub>ヤ</sub>窮<sub>ツキテ</sub>頗<sub>シヨラ</sub>雌<sub>シ</sub>伏<sub>フク</sub>遣<sub>シカシテ</sub>飛<sub>キダシ</sub>脚<sub>カダシ</sub>於<sub>ニ</sub>木<sub>キ</sub>曾<sub>ソウ</sub>  
 之<sub>ノ</sub>陣<sub>チン</sub>告<sub>ツク</sub>事<sub>コト</sub>由<sub>ヨシ</sub>仍<sub>ヨシラ</sub>木<sub>キ</sub>曾<sub>ソウ</sub>率<sub>ソツ</sub>大<sub>ダイ</sub>軍<sub>クニ</sub>競<sub>キソヒ</sub>到<sub>イタル</sub>之<sub>ノ</sub>處<sub>コロ</sub>  
 賴<sub>ヨリ</sub>直<sub>ナホ</sub>怖<sub>オソレテ</sub>其<sub>キ</sub>威<sub>セイ</sub>勢<sub>セイ</sub>逃<sub>タウ</sub>亡<sub>ハウス</sub>為<sub>タメニ</sub>城<sub>シヤウ</sub>四<sub>シ</sub>郎<sub>ラウ</sub>長<sub>ナガ</sub>茂<sub>モト</sub>赴<sub>モトメ</sub>  
 越<sub>エチ</sub>後<sub>ゴ</sub>國<sub>クニ</sub>云々

兼遠と信州本君の人より姓中原故小本君中二よりこれより向小若刀先  
 生源義賢其兄た馬頭義羽と不和より武長大若若小若と悪源と兼平  
 こ種を殺を義賢幼思あり駒王とら小若別南定盛抱と負と信の小  
 仍兼遠小托以兼遠潜小若若育して元服をさせ二郎義仲とら小治兼子  
 中平家上皇成高羽の許之小押我高倉王義兵と起しの人討我仲王の  
 合有城更と義兵を奉内兼遠これと輔佐を兼遠小三子あり所湯  
 樋に二郎兼光今井四郎兼平落合五郎兼行みか本君殿小随従して  
 武名あり又一女あり巴といふ頗勢力あり  
 峠殿は上田村の民小峠を信濃と稱して酒城と稱して酒城と稱して酒城と

峠殿

映あり村民大小これ分群分明日將軍源義仲これ潛居し申

水精山 駒ヶ岳の西にあり其地むろり水精山と相傳ふ云本岩殿

烽火嶺 本岩川の西にあり其時作候をいふ峯に五將遊と奉て去と告故小若く

野婦池 駒ヶ岳の西にあり其地むろり水精山と相傳ふ云本岩殿

百姓本娘の初作とて現ひ足まは髪遊ふ立と顔本肉角を

生れ其夫大よ思まきく種を出を親家よ帰まは父母も膝を

通出を竟小平原に遊看して傍の柳と截く枝と性本に

時ある時枝を池の側本立く身と投て死を其靈鬼とあり里人

研犬岩 麻犬年あくと計小石壁の下に墜ゆ犬悲慕を棄て麻と遊ふあり

斬蛇潭 里人時くは是坂開者多し一農夫ありは鎌小村と稱く

明星巖 本岩川の西にあり其地むろり水精山と相傳ふ云本岩殿

信 宮腰

教原中を二里又宮越くも書以狀中東西に町半相對

信 正八幡宮

里人云本岩義仲は神示にて元服をとりて

信 南宮祠

は一村生之神

信 德音寺

本岩義仲の牌を蔵む岡基朝日將軍本岩義仲直

信 本曾義仲城

本岩義仲城の東にあり里人其地と

家系を清和天皇七代の孫六條判官為義三男常刀先生義實或

彦國之後岩の館小あり久壽二年八月其兄義相と不和なり其子

惡源を義平以て討平ぐむ義賢小二子あり其嫡子汝仲家と

以源三位賴政妻とす其次に義仲とす推名を駒王と名

けく父義賢害せしゆ村二葉齋藤別當寧盛と終瓜匿して行列

以来中二兼遠本托以兼遠之終を養育し敏と拍原村小築  
てこれ小居しむ仁安元年拍原八幡宮小築く元服以今の文の武  
八幡宮是より名坂本若二郎義仲とて治承四年平家上皇と  
鳥羽の難宮小塾居ふより時小源二位頼政が勸小より高倉  
宮義兵を起し今旨を諸國の源氏小賜し義仲令をおく兵を  
奉り嘉永元年九月九日越後守長茂を横田川原に合戦し  
大い小敗る長茂逃走る武威益著る今井兼平樋口兼光権  
忠根歩仍親耳目股脛の臣とてて越後四天王と称し日二年五月平  
軍十萬越中越浪山小築る義仲送小撃て大よこ越越平軍死ふ  
その七万人殘兵系降に逃帰る義仲北小筑遊より鹿岳に登り七月  
廿四上皇敵小潜幸以義仲供奉し洛入ふと其軍兵凡五萬  
平賊帝と奉りて西海小出毒以義仲父祖の恥を雪む毎小不世の  
功あり八月十六日保縁國紙楊小左馬頭征夷大將軍に任り上皇又令て

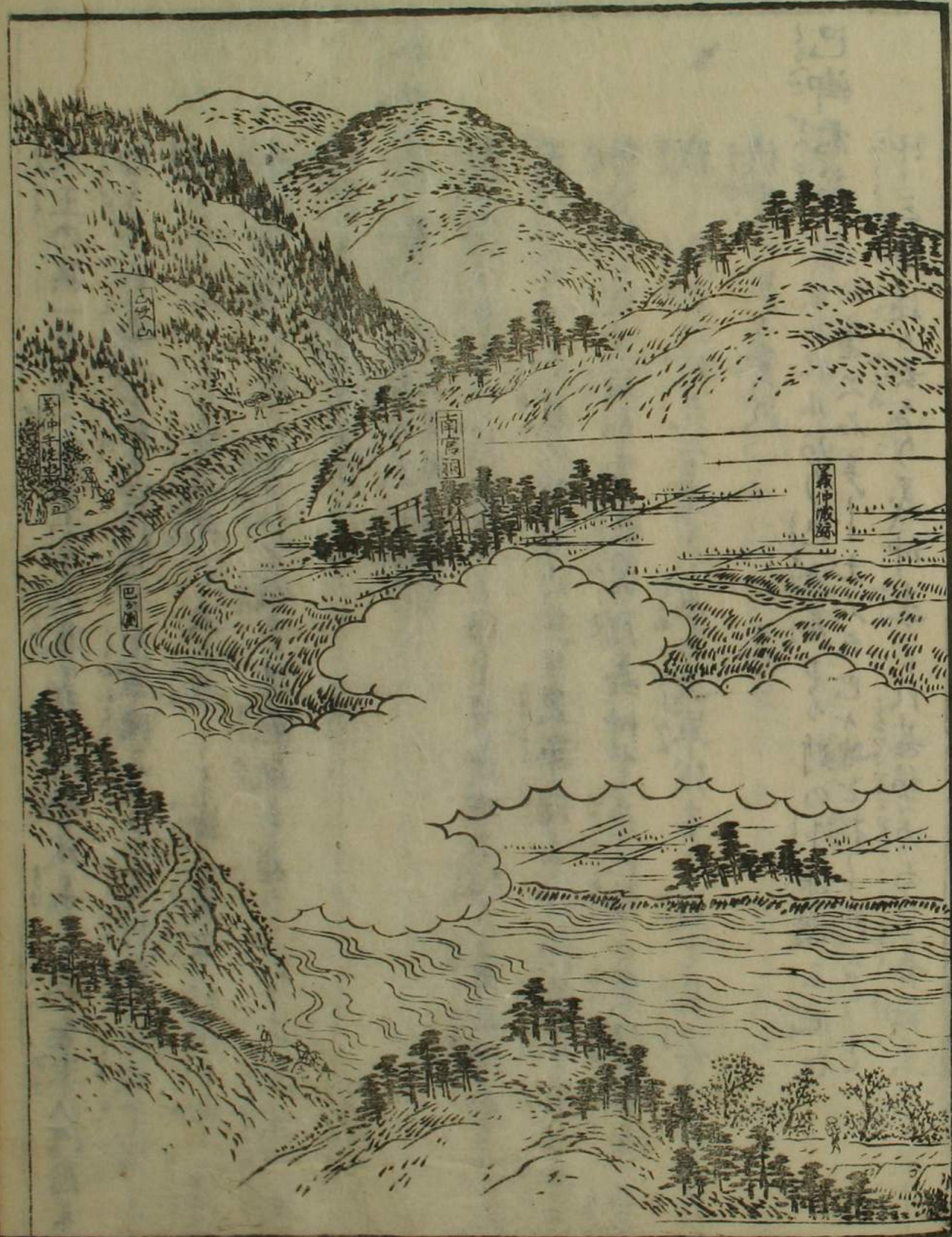
本卷二二八

朝日將軍とて頗朝憲よ系とけれこれより先高倉宮害小遭ふ其  
王子信ともく小園小流落を義仲こも洛奉りて洛入即位ありん  
更をより上皇聽容あり安徳帝の弟君とて天子に之んと是と  
争り聽り大小憤怒を合む人あり義仲小措りより上皇兵を起  
義仲と討んと欲り義仲大小怒り十一月十九日軍以發し法住寺殿  
と攻る官軍大小敗られ公卿令以頭以暴虎討小甚し源頼朝大い小  
驚り範頼義経の二將と使りて義仲と征伐を元暦元年正月廿日東  
軍洛小入る義仲粟津原に敗走し流落小中て首以被く義仲の人  
とあり勇猛ありて兵を用ふ率寡とて小衆小勝向ふ所必勝被  
率ありて大功を立一世の雄せり危し物も不學にして術  
か誤り大逆小陥あり幸悟む危し

樋口

次郎兼光館大樹のあり其地  
中三権守兼遠の長子なり本若及小遊より属戦功あり所傳曰





徳音寺

本曾義仲  
古城

廿九

徳音寺村

天王の其一方り元暦元年の春義仲の命に兵を率ひ河内  
赴き十郎藏人を撃つ正月廿二日東軍洛小入り義仲撃つ兼光歸り  
洛小入り〜これに聞て大に悲し〜遂に東軍に降る向ふ法住  
寺殿に攻め入り官人を殺し其罪赦を乞ふ〜とて六条河原  
にあり斬罪せしむ

今井兼平 駿の東北あり  
兼遠の次男なり兄兼光と曰く義仲小仕く屠戮功あり四天

王の一人なり元暦の春正月廿二日東軍洛小入り兼平兵を率て  
勢を拒み軍に敗る幸救箇度義仲を東に赴き粟津原にて奮  
戦し主君の戦死を聞て忽ち敵軍に多く敗り馬上にて自害し  
後世其忠を賞む

巴御茶第蹟 駿の北にあり巴女居る所の跡と傳ふ  
中三兼遠が女なり義仲妻といふ其勢力あり善戦し兼光中

本巻之三十三

小陸の戦ひ兵を率く將とあり元暦元年正月廿二日東軍洛小入  
義仲の軍に敗る勢同小治兵士率散るを義仲兵七騎巴女  
其中にあり義仲巴女向く曰我運命今日小入る死小治の女子  
汝等つる幸恐くくは後縁あり速小く去る〜巴女止む幸に  
得て別ふ又敵の中へ入る小内田三郎家吉といふ者大力の士あり  
巴女と捕んとて馬と並べ巴女髪を持佩刀と抜首に人といふ巴女  
拳に拳て其肘と打首に馬を馳せし路を往本なる其後  
右大将頼朝巴女と召て和國義盛小取如し先多力の男子と生れ  
危しや今以義盛に納め後朝比奈三郎泰秀と名付頗る  
勢力あり〜世に傳ふ

山吹 駿の北にあり土人云は所  
山吹女の居る所あり

平家物語云義仲小二妻あり一本巴一本山吹元暦の合戦山吹疾  
あり系傳に止る又平盛裏記は義仲小二妻あり一妻一巴何

も善願小築破浪山小築死二説月トウハ威云山吹と齊藤別當  
盛が女ウリウリと其是の女を志す人

荻曾川 荻曾の山中より如子

生還橋 本を架してあり長サ十二間

德音寺橋 長サ十八間

義仲手洗水 信濃の東道の傍あり

石碑云 往古木曾義仲公 鎮守南宮神社水

御手洗也 唱來廢年 歷久矣 歎之 今

新造立石船者也

奈良井まで一里半 駅中南小五町許 相對一々

巷以ふん其峰山間小散在

熊野權現祠 別宗六月十五日

極樂寺 同山茂林和尚 古畠十右衛門之遺蹟

本卷三十一

信濃 藪原

藪原宅 古畠十右衛門の邸 邸中邸下邸等の址今みか田園と云

五反田橋 長サ十一間 本を架して梁と云

築鷹官舎 府下の鷹匠 本を架して小鷹籠を生むと云

土産 駒 本を架して諸村みかこを橋と云

名造お六掃 は腰藪系 奈良井等小

拵けお六掃と本を架此山中の名造りてと同小田圃と云

多く諸品を製造これを賣と業と云 特小近奉お六掃と

名して諸州小と云 本を棟梁と云を製は掃のちと云

伊弉諾尊にして清子素盞烏尊殿の川上まで寄縮田姫湯

津の爪掃を清誓小掃のふり起ると其後欽明天皇詔ありて

八品大明神と崇光根匠の家々と掃と云と云

爪掃 掃掃 掃掃 奈良後小路大原祠と伴特諾尊以衆て八品

鳥居嶺

昭神と云は神と云ふ其恩惠誠報と云ふ  
鳥居嶺 峠の鳥居嶺と云ふありしより名と云ふ今ハあり  
信玄也本名義康と云ふに合戦あり其後天正十年 武田勝頼  
より今福筑前守武田大將とて人教八千餘は所へ流るる本名友  
馬頭義昌信長公の所方とて七子修人あり鳥居嶺へ馳向ひ

武田信長記  
武田信長公の所方とて七子修人あり鳥居嶺へ馳向ひ  
謀及と企たり 中畧 月十二日信忠卿被年より所出陣ありその  
夜土田小清宿あり十三日高野十四日岩村小清着あり流河左邊  
將監毛利河内守水野監物同宗左衛尉と十二日の未明小岩村より

信列伊奈口へお城也月十四日小信列松尾の城主小笠原掃部助  
小森忠節と被屋ととや紙を付く團平八森勝藏若をさる所  
早手合して小笠原掃部助を斬り煙を揚るるを飯田城に

鳥居嶺 御嶽 遠景 義仲 硯水



楯籠る伴西星名も方も遠公の體と見及進抱るくやる人  
其表則因死のく處小森勝義四五里隔陣取くあつては由以聞と  
部くく一騎馳ふけ付退後まくる者ども少く討捕頭三百餘信忠  
へ進上は叔勝頼と本曾表手遣中して今福統弟雪小巳が子の馬迫  
むろり居加(初合其勢八千餘騎)居津表へ居きく二月初旬の頃  
形は六張雪津より谷も暮も平等小成已向叶ひくた拍りたる  
今福統弟雪武者大將として本居に(せ働さる義昌が先勢も馬居  
津以赤よあて南座の要害と據く居るなりしが今福が手遣と空  
より早く先手此者は由進進してたれを義昌も安うぬ夏もとて苗本  
久義尉中合せ出張を初合其勢七千餘騎宗良井坂と喚き叫んぐり上り  
雪居津見て今福と波里合ひ既小合戦小なる六張雪谷峯に滿ち戦場の中  
さくびやふれをあのけく割腹もいらさるに地して進小く人づる勇士た  
互小者とく辰刻より未時まで志の死を及川里河をわり切川掛是川

本居宗良三十三

南風小風を先途や攻致しうふあよ久義尉父子右に此山の週とつて  
押廻し横捲小突その難あけはさるる今福横陰小突さく突えらる  
敗亡しつれば三里が回退討りて死してたれ討捕頭のは文宗流の者も跡跡  
治部が補有賀備後と益井益原小と回左系進其外究竟の兵も六百  
七十餘人なり其頸共中將信忠に(本居義昌より指申り)津感料  
るくびして使者小黄金百兩小袖三重下し送りたる義昌へ(比類る見  
佛の旨濟感の手紙をいされたる為要し)死を信長記小あり性を見えし  
義仲親水 居津小あり捲の法(おたりは津西の下に)義昌の入口より  
仍りあははるより出る是より飛彈へ切道はたかきと檢組よりて馬に  
乗る更なるは多く牛馬乗る性来れとす  
白碑 雲雀よりう人ふやまきく津く非  
熱川まで一里半又猶井とも書は(中東)西七町餘お對て  
巻をかり其存民家散在は(宿)繁昌の地ありと本居  
野中の甲たり

信  
宗良井  
濃

奈良井  
鎮神社



鎮大明神 奈良井の西は小里の村に在りて其の古くは神代に於て

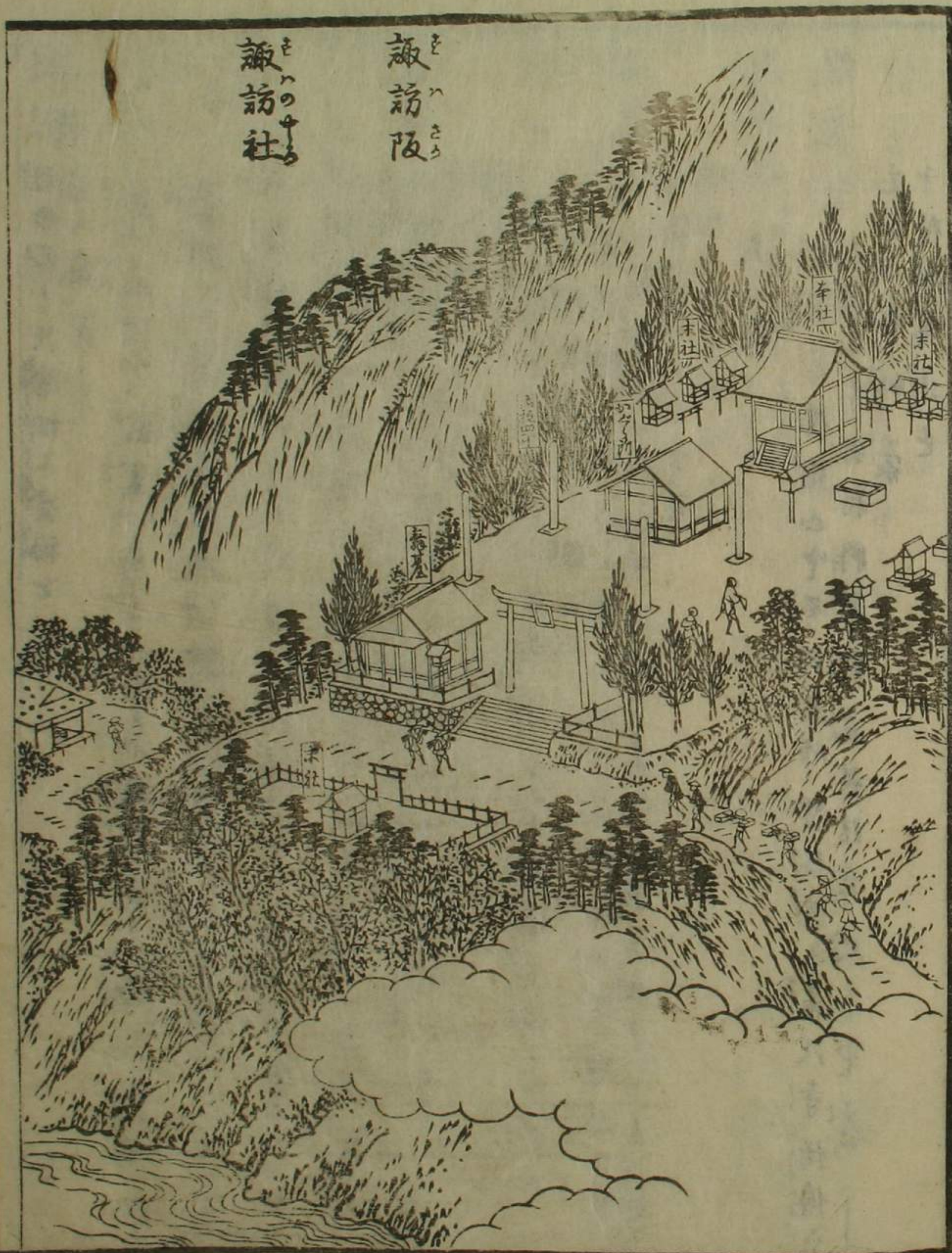
鍋懸嶺 伊那郡の法村にありて其の古くは神代に於て

奈良井橋 長十間本とありて其の古くは神代に於て

大寶寺 天正年中奈良井の村にありて其の古くは神代に於て

長泉寺 曹洞宗王龍山と号し其の古くは神代に於て

尚中興を藤田社登る信者此は法帰依其法名と直  
指院の部將小住居て武名あり中頃故ありて仕を拜し  
去る奈良井に居て後又信別小降る年以嗣子毎さ月  
白山権現祠 規善堂あり



諏訪社  
諏訪阪

宗良井治部少輔義高館  
 千村治郎右衛門重照宅  
 今民居の後に天正十八年率以傳記詳々  
 千村治郎右衛門重照宅の舎八郎右衛門重政の子なり父  
 本為義高及義高の舎八郎右衛門重政の子なり父  
 其後義高下給國許戸本遷ふ幾たり重照領地八千石  
 通以致して去ふ其子孫  
 今小石川尾明小奉仕を  
 土産 稗 粟 蕎麥 村水田が  
 鞋 海より流る海より流る  
 尺 許 年毎こまど怪して  
 名造諸器 小民小田圃が 諸器を製造して  
 諏訪明神祠 二年に創建 老傳云文成  
 義高武田勝頼を不和ありて典厩信豊  
 政子高居味の合致火を致し祠を焚く  
 夫して幸實傳らば例系六月廿二日  
 本社のに方より御社に御社に御社に  
 建勢ふ神に御社に御社に御社に  
 其外末社多し

平澤

村の名とに槍細工塗物と

熱川

幸山さて武里いりへろふ温泉あり故小熱川也  
名はく東山道駅次は所より東に松平領といふ

接澤橋

本名岩の岡みか尾列度の所領なり過駅中東西に所  
存相對して蒼沢なる最般阜たり其地の民居散在

熱川

其下法犀川とて其水小流して松平に  
入る

備本澤

小野村八ヶ倉神祠七年ふ  
入る

諏訪社

一社は神といひて  
生土神といふ

観音寺

大同元年村將軍創建其法華也  
千村氏再建を

鷲着寺

曹洞宗飛梅山と号し  
寺長泉寺小属を

押籠橋

東路中に入り長サ十間本以築いて梁

熱川四郎家光家

本名備後守家村の四子なりは  
氏といふ其後三尾村小属に改して

千村右衛門尉俊政家

本名備後守家村の五子なり家重上州千村  
郷小属に其地を領す

菽曾

其十世の孫俊政なり本名義康に属しては  
長とたり其家に武田信玄の書一通小属に  
二通本名義康の状

獵諸獸

鹿猪羊熊等本名此山中より狩りて  
菽曾

菽曾

黒川末川西野王籠等  
土産

土産

絲綿麻又接骨藥  
五月日橋

五月日橋

長七間



夜更着明神祠 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

例東八月

索川 郡の属邑に民戸少く十二里

秀綱澤 郡の属邑に民戸少く十二里

黒川 郡の属邑に民戸少く十二里

山神祠 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

其の飯を彼に秀綱澤と申す... 其の飯を彼に秀綱澤と申す... 其の飯を彼に秀綱澤と申す...

本郡三十七

駕疲嶺 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

燒棚 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

其の飯を彼に秀綱澤と申す... 其の飯を彼に秀綱澤と申す... 其の飯を彼に秀綱澤と申す...

箕作 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

今製 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

河童 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

宅地 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

今製 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

烽火 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

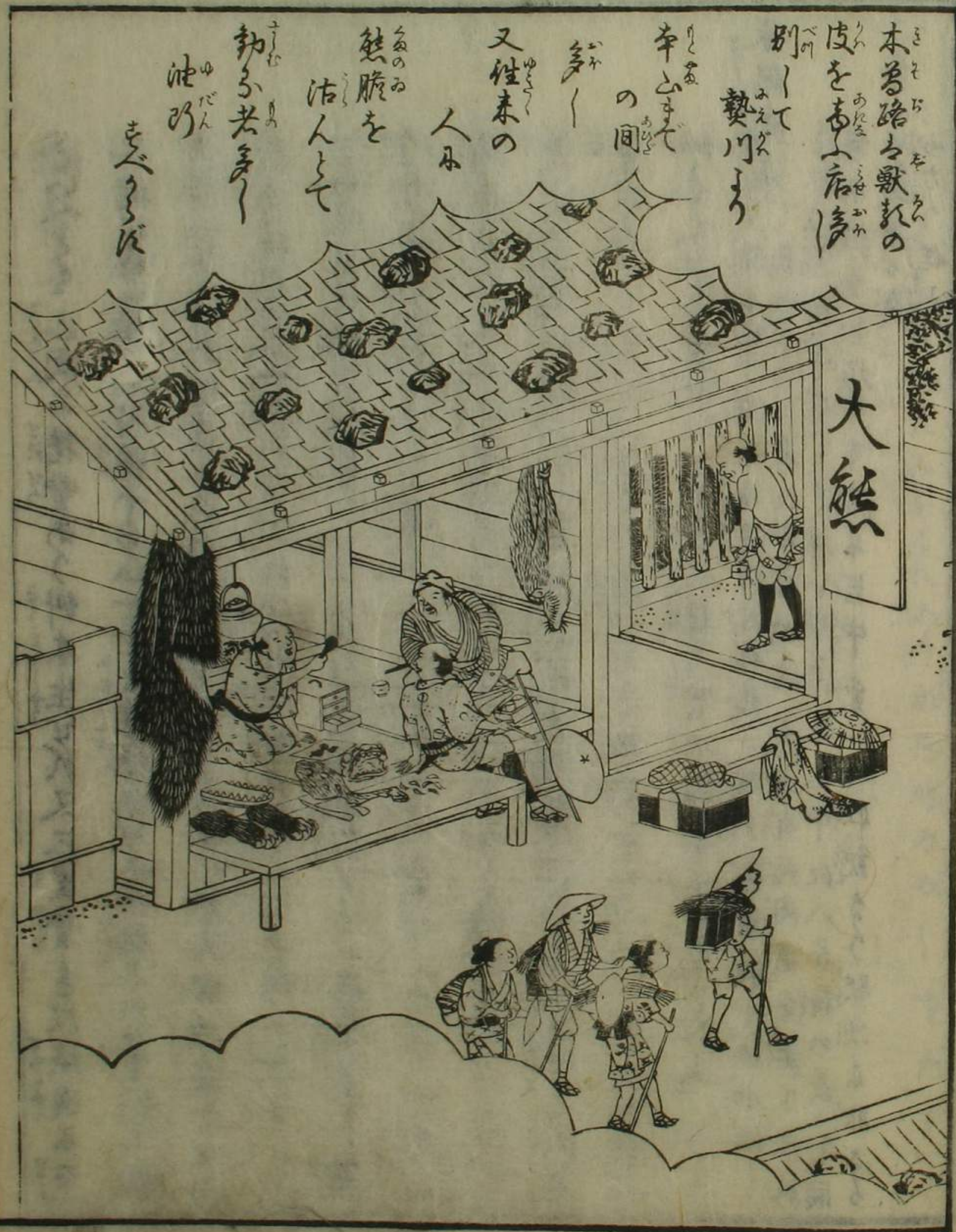
小子墳 本郡山中茂村あり夜更着の名甚く其の

其の飯を彼に秀綱澤と申す... 其の飯を彼に秀綱澤と申す... 其の飯を彼に秀綱澤と申す...

田の中本殿し又笠成慶ふに其形見一以其様と半知べし  
及後ろに幕内又其様小長様殿あり其様と其宝抄と  
及今本殿に越えりて其様と者ら怒らんと其里人大小  
及れりて教て其様と半知べし  
地渡 澤村中男女お交りて毎年の五月五日本澤を渡りし  
と着る男女越えりて其様と者ら怒らんと其里人大小  
西野 本澤北山中にありて五穀生せん其水も亦悪し古へ  
増家寒冷ありて五穀生せん其水も亦悪し古へ  
黒澤 本澤乃山中ありて其様と者ら怒らんと其里人大小  
御嶽 御嶽権現祠 黒沢の宮と云ふ 奉社橋 御嶽の祠にありて長サ  
以 奉社若文の二祠あり 楠安氣大菩薩以安以延長三  
鎮座至徳二年本曾伊豫守家信造りて其宮と云ふ  
三年本曾右馬頭義康造りて其殿 二間讀經堂 五間  
禮堂 八間 奉社禮堂 八間 寶藏 一字 祭禮例年六月

本澤三冊八

十二日十二日福島三寺の僧来り大般若經法儀心且流馬  
三騎あり於く御嶽へ登んとするその崇齋七十五日六月十八日  
山小登ふは祠の寶物本澤源長政永祿三年六月十三日御嶽  
に中本牌其姓名と録に本澤義昌欽仙の画板二十六枚と  
献に今其四枚失に武田勝頼の書翰一通其録古文書多く有  
一が世水小遭く流るる祠官武居氏守也  
御嶽 之信濃一列の大山なる西野黒澤末川王瀧等其麓本育  
星沢より獨奉祀を毎年六月十二日十三日諸人祭舞して  
登ふ全く富士山を登れりて絶頂小祠あり且三花池  
ありて其側巨巖矗々たり四季に雪あり靈境と云ふ  
山小登ふに四里ありて堂あり夜中炬を照して峯に至り  
祠あり金剛童子と云ふ小憩ひて天明成侍は益五粒松多  
一枝と云ふ虬龍の如しこれを名づけ御松と云ふ盛夏





本曾殿墓

三沢小里人其名沢志只本曾殿と云ふこれハ本曾左  
系大丈義元飛騨の國司を合戦して小於て軍敗して令以  
隕以即此墓形と云

權守兼遠墓

三浦小里古石塔婆なりいづこの人女と云噴と建  
崩越古城其由緒詳かり城拒む要害の遺址なり本曾左系を義元飛騨軍  
三浦山濃列飛列信列之國の東なり

はとと津嶽の東山の麓より登り橋子坂と云ふ小於て一峯

又高嶺も登りて飛騨信三列の界なり標と建と誌と述ふ

洞あり水無澤と云ふ又高嶺小降む巨巖あり鳥帽子岩と云

つふこれを登るとは方傍密歴く見へく駿河の富士誠此と云

白ふふ小群なり茅六嶺も至れを洞あり琴沢と云ふ又板屋

ありと小須ふ所あり已めて高嶺も登りて其間の山路石段截

て徑をかく梯を架して磴を力ん艱難辛苦して茅九嶺小須ふは

山高嶺と極むと云ふ地平ありて大道のやうに狐奥倉崖と云

別津嶽の岬なり其路左邊飛列子属一其上を飛列嶽と云飛騨川

まゝ小ゆる其路の右邊信三子属して子嶽と云其下に瀑布あり

旁と散らぐや一碑と百間嶽と云是王滝川の源なり下流と本曾の

大河小流合ふ其上の嶺石壁屹々易うは嶺小これを登るとは飛信此

界あり小至ふ九等一嶺より第九嶺也其行程路十里越夫の道小

道と云下流小自若に云る其西岸即本曾王滝山なり其東の岸

山中三浦と云一の板屋あり証小舎と云里人云む一三浦を云と

つ者ありて周廻してと小居ん極むも寒苦と云はる一因三

居公殿越小橋に云る自若に至り越越小紙ふ九百間嶽より

白若小至りて行程又十里許山中度丈なりは山中に良材あり

梶本似る樹あり葉極く小なり信を都賀と云ふ又一種あり葉  
あけて脊白く虫を食て竹のわき踏む裏白梶と云ふ信を白比と  
と名づく又一種あり細葉ありて齊整なり其は虎尾梶也号く  
信は唐松ともいふ種白本屋小可なり又一種あり葉細くして  
その向り阿羅之本と号く又新羅松及び五粒松なり葉極く  
潤く樹の皮青く味ひ若く信を青ぬ古といふ其本と成り新  
とすふつあて乾ば信は社樹を獵所獸を退く雪爪侵して山を  
討は本と成り燒火とて寒と凌ぐとて樺本あり別本州小は松  
我は其皮炬と云ふ其は鷓鴣炬也号く蓋これと焼く一ふよ入る  
減は放小鶴を使ふその衣は炬を燒よく水と照して便を信可し  
又白樺と名づくその向り其皮重なり為く剥とれた紙のごとく  
炬燵小可なり又樺の本は似るその向り皮厚く本理ありこれを  
水芽と云ふ 杖小製なり又靈壽木と云ふあり即本州小我は

信小色深也号く紫陽小似る葉細長く竹のわき赤實成信也  
○は山小鳥あり巢成り離れ生れ鷓鴣のや其ごまき又一種鳥乃  
乳鶴のてり灰黒色去人呼ば信鳥と云ふ是本州小所謂山鳥なり又  
御嶽岳樹の地小鳥あり乳雛の如く赤冠青趾羽色黒白相間其名と  
鶴といふ種一棲と云く雲中にあり人見ず幸少なり  
○三浦吉吏の宅中三浦小あり里老相傳云和国合戦の時其族交  
小近く居る其後越越小移る今に至りて越越村の百姓云ふ三浦氏也  
稱はて終成訛りて三年移りて猶三浦の字と書り東鑑和国義盛  
越越敗れて首と授けし時一族を討死に只朝比奈三郎泰秀其後所  
城と云ふ泰秀の母と巴女なり巴女本名兼遠が女ありて泰秀は其子孫と  
稱はるる小近居るも知れず越越の百姓兼遠を祀りて地主神  
と云ふ三浦吉吏の墓中三浦山の中小あり古樹多く墳小あり是和国合  
の族建るなり近く小居る幸少く頗其子勢力ありあり阿比使國

上野義仲  
洗馬水



洗馬  
真福寺

栝原

武士のまじり

うそね  
年うりて

あれうあ

きらかう

あ

江戸  
宇万伎



本巻三十四三

小郷本行其里人大岩と脚丈六十人ありて往來推すは程りきと後を夫  
其子に余ト肩と祭して往く里人大小駭く且大木須松折く杖と一本  
多小澤又馬と負く山と越る幸津越て見る所のぬれの勢力朝比  
奈三郎小あはれして往く河んあふ小岳を更変して疑危うは

一條を鎮主の有司本番の山中巡檢のありむれこ  
其本番志を省略し且本番路駭少小羅一のをもを  
ろに若んのもを

都々落合の駅よりハ驛まで廿一里あり岐嶺の山路ありて崖  
路棧道多く艱難辛苦の路中より熱川より柿本村中畑若神  
子斤平小橋沢大那本大橋沢もく本番路の界とあふ小標本有  
西と尾列津領東と松本領よりて往を堺橋とらふまこ大橋沢の  
上と千足原とらふ所ありて是れ本番義仲多く馬成廻り所  
かりと往々危れ沢と橋あり存る親音堂又岡の森の中に八幡  
宮の屋一筋あり奉山小つた所

本番三十四

本山

洗馬を二十町西の入口小橋あり川左小流るは往も本  
番山より流るは本番の幸谷ふたあり

奉山親音堂 奉山の歌の 信列巡礼所廿一歳之小沢川を過くころ舟  
橋あり 長サ 十間 橋爪小龍大神の鳥居ありこれを遠水と名を人煙  
行々して又より新樹程隔る隣たがひ小疎一東乃西の  
客とみか知事ふあり村南村小成とく洗馬の駅より

洗馬

塩尻まで一里三十町ハ所より越後高岡へ三十を里  
信列河中流へ十一里松代へ十六里へ

義仲馬洗水 及小洗馬とらふ

東鑑云

治承四年十月十三日 木曾冠者義仲  
尋亡父義賢主之芳躅 出信濃國入上  
野國仍住人等漸和順之間為俊綱  
利太郎也 雖煩民間不可成恐怖思之



由如下一知云

善光寺別道 信馬の東

拈梗原 信馬と信馬の間にあり 遊働の里あり

武田信玄の嫡子武田吉郎義信甲府を發馬あり

左馬の尉飯家之郎を信尉其外馬場内藤喜日

既小拈梗原に下りては後陣の勢あり

大膳を交長時と一家の同族あり

拈梗原に下りては六月己卯拈梗原に馳せ

互に小拈梗原に入ると追ひ退り

て原志とて引退け長時大の怒り

拈梗原に押せ七日の外に

真鱗小田河馬東為小馳遠に種旗南小入乳

信濃 塩尻

下諏訪へ三里塩尻峠より

松平丹波守度の領地六万石

阿禮神社 塩尻小あり 延喜式神名帳

平野 荒神 庚申 子安 半頭天王 飛騨神

犬飼清水 塩尻嶺のそばあり



塩尻

塩尻 嶺 塩尻と下の塩尻の間にあり塩尻より二里登る嶺より  
何某と括授所よりゆくは俣あそ甲州勢と

信虎軍記

武田晴信翌日卯刻小塩尻津小あつらう款味方関を揚ふや否や拔さ  
はまき切て入給合せ退宿し立止しあは捨度と敵あつらうされども  
款へ主敵るの味方と長途小勞を其上一一有餘の款兵小味方俣小  
六平城より相敵を甲兵大小勞を果てせ見くつらな所され晴信  
屑ともまの尻旗幸城のく横入めし七頭八例して敵ひあふは或い  
馬上より紐で尻首をそりゆもあつらうの進隊ありとも見たりは  
然れども晴信自兵隊を軍率以勵しあは款兵色半退宿され  
是は四度路よりあは款軍の中より退皮體をく麻毛する馬小  
あつらう武者指物を切抄し仰殿をくはつらうと駈來り給をりつ  
晴信の右の股をきつらう小突所を晴信其俣の給乃首旗極を  
なすし駈る俣してゆしはあは小山田平次左衛門尉馳來り其武

本巻三十四七

者城馬より進小引敵し押へ首をうけ居たりとくは款軍大の小  
私進立く熱軍極に敗走に信列の二將のむご着陣せざる内なるは  
客合の集り勢をひく小一手切乃合敵して手負死人若干なりは  
あは城捨子を親を顧む俣を上り小進達を退宿し討程小首と俣  
幸八百七十三級あり晴信の思慮し給ふおしも遠く安くは款と退  
宿し軍勢大小勇あり諸卒務骨以て中大小小山田平次左衛門  
働し他不異しと則威状をせ下さねる

今十九日卯刻於信州塩尻郡塩尻津一城之御頭一討  
捕衆神妙之至俣跡可抽忠信更肝要也仍如俣

天文十七戌申年七月十九日 晴信

小山田平作左衛門より

晴信と河中将小俣あれども款一務もあつらうは十月十日  
甲府小俣陣し給ひる当河中将軍記ふらうして見るべし

浅間祠マタノハヤシノミヤ 嶺ミネ小ありこあり 舟ふねの所ところよりより家いえ士し山やま向むかひひ谷やををなりなり坂さか小こ社じやありあり

大岩オオイワ

岩い屋やをを立たてたてたてた

又また諏訪すゐの湖うみ高たか嶋じまの城しろ方かたとと解とききううてて口くち津づ屋や小このの芝しば見み村むら

よりより峰みねがが炭すすををここももたたるる方かた小このの字あひひ足あゆゆはは所ところ諏訪すゐ方かた嶺みねととも

もも板い橋はしありありてて長ながササ十じゆ回かい許ゆる左ひだりの方かた小こ諏訪すゐ妻つまのの文ふ字じ西にし面めん通とほりり小

向むかひひ谷やををなりなり坂さか小こ社じやありあり

又また諏訪すゐの湖うみ高たか嶋じまの城しろ方かたとと解とききううてて口くち津づ屋や小このの芝しば見み村むら

よりより峰みねがが炭すすををここももたたるる方かた小このの字あひひ足あゆゆはは所ところ諏訪すゐ方かた嶺みねととも

もも板い橋はしありありてて長ながササ十じゆ回かい許ゆる左ひだりの方かた小こ諏訪すゐ妻つまのの文ふ字じ西にし面めん通とほりり小

向むかひひ谷やををなりなり坂さか小こ社じやありあり

又また諏訪すゐの湖うみ高たか嶋じまの城しろ方かたとと解とききううてて口くち津づ屋や小このの芝しば見み村むら

本曾路名所圖會卷之二

